

朱を精製した土器

調査：宮古北遺跡 第15次調査

出土年：2009年

大きさ：直径12.4cm・高さ5.2cm

時代：古墳時代前期

古代の人は、朱やベンガラのような赤色を邪悪なものを防ぐ神聖なものと考えていました。大規模古墳の石室内や祭祀の道具などを赤く塗りました。特に、水銀からつくられる「水銀朱」は、鮮やかな朱色が特徴で、同量の金よりも高価だったといえます。

田原本町西部の宮古北遺跡^{みやこきた}では、約100m四方の集落を囲んだとみられる1,700年前の大溝がみつかっています。この集落の南の調査では井戸が見つかり、その中から内面に朱の付着した小形の鉢が出土しました。

この鉢には、傾けた状態で火をうけた痕跡（スス）があります。その中心部は赤く朱が付着しています。粉末状の朱を煮沸したようです。

6世紀の倭屯倉推定地である大字宮古^{やまとのみやけ}付近は、さらに古く3世紀代にも朱を扱う重要な地区だったことがわかりました。

